

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 14 NO. 4

(通巻55号)

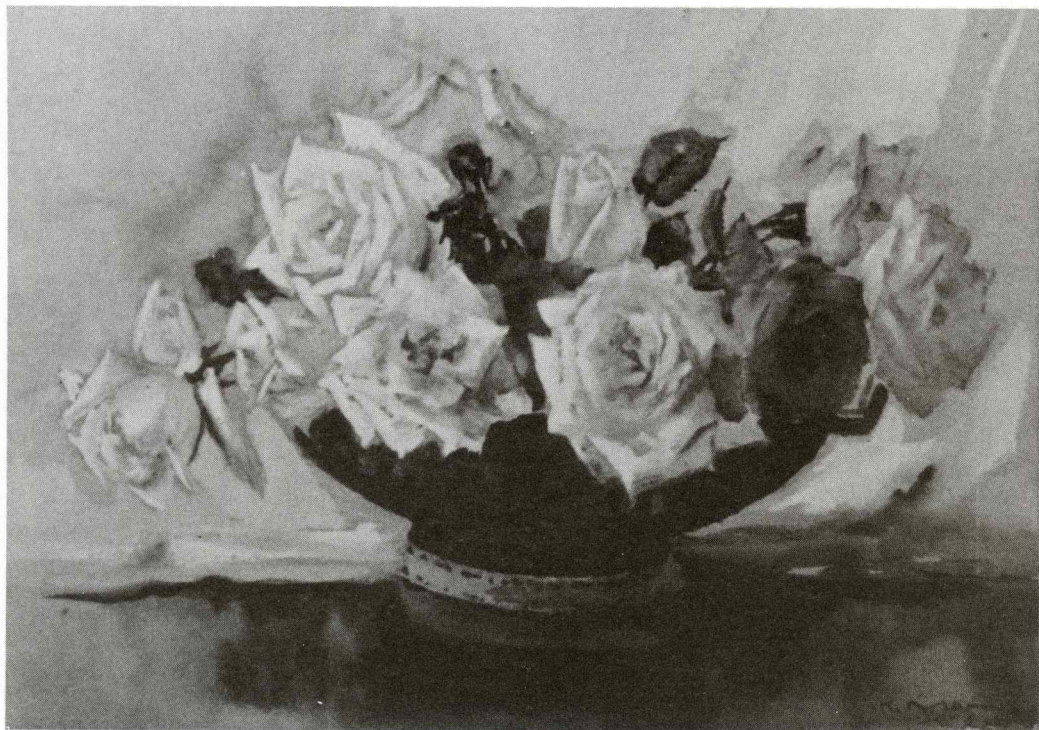
昭和63年 3月10日発行

編集・発行人 藤川 昶

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



真野 紀太郎 「バラ」 紙・水彩 1940年

明治初期より、イギリスの画報記者ワグマンやイタリアの画家で工部美術学校の教師フオンタネージなどの指導もあって、近代日本水彩画の展開が本格的に始まった。特に明治20年代に入り、優れたイギリス水彩画家が来日したことも刺激となって隆盛し、水彩画を専門に描く画家たちが登場した。真野紀太郎もその一人である。

真野は、明治4年愛知県に生まれ、明治12年上京後、中丸精十郎や原田直次郎に洋画を学ぶが、やがて水彩画を専門に描くようになる。そして明治40年同志と日本水彩画研究所を設立し、講師として活躍。さらに大正2年日本水彩画会を結成し、以来その展覧会に出品を続けた。昭和33年满86才で没するまで水彩画の普及と指導に尽力するとともに独自の美を追求した。

本作品は、昭和15年真野69才の時の制作で、バラは真野が好んで取り上げたモチーフである。花の形態が的確にとらえられ、白、黄、赤などの色彩が効果的に配されて温雅な美しさを漂わせている。バラを得意とした真野のその力量が遺憾なく発揮されている。

みる (展覧会)

新収蔵作品紹介

昭和62年度に収蔵された作品は次のとおりです。

購入

日本画

石井林響作

「蓬莱仙境之図」

(絹本・墨・着彩 昭2)

「桃源」 (絹本・墨・着彩)

「老松白鷺之図」

(絹本・墨・着彩)

「高砂」 (絹本・墨・着彩)

鈴木鷺湖作

「蜀の栈道図」 (絹本・着彩)

石井鼎湖作

「立姿婦人図」 (絹本・着彩)

島多訥郎作

「群魚と波動」

(紙本・着彩 昭50)

立石秀春作

「九十九里」

(紙本・着彩 昭62)

洋画

石川欽一郎作

「赤城淡煙」 (紙・水彩)

河合新蔵作

「春の日」 (紙・水彩)

「竹林図」 (紙・水彩)

真野紀太郎作

「バラ」 (紙・水彩 昭15)

安藤信哉作

「牧歌」 (麻・油彩 昭35)

内藤圭作

「緑衣の婦人像」

(麻・油彩 昭36)

森桂一作

「ランス大聖堂」

(麻・油彩 昭34)

積田鏗土作

「貝になったパイと浜地蔵」

(麻・油彩 昭61)

天野三郎作

「水差し」 (麻・油彩 昭50)

秋元恒作

「高生垣の家」

(麻・油彩 昭51)

小林 数作

「アマダアラム峰(ヒマラヤ)」

(麻・油彩 昭59)

高橋規矩治郎作

「滞船」 (麻・油彩 昭45)

彫刻

柳原義達作

「風の中の鴉」

(ブロンズ 昭59)

高田博厚作

「マハトマ・ガンジー」 (石 昭35)

「ロマン・ロラン」

(ブロンズ 昭36)

西村房蔵作

「翠蔭」 (ブロンズ 昭59)

石井滋作

「大地」 (ブロンズ 昭56)

本田晶彦作

「黎」 (ブロンズ 昭42)

鈴木徹作

「さくら貝」 (ブロンズ 昭53)

「馬と娘の恋物語(3部作」

秋・冬・早春」 (ブロンズ 昭59)

池田丈一作

「ひねくれた正四面体」

(木 昭56)

「ひねくれた正12面体」

(木 昭62)

浦野八重子作

「生きるということ」

(アルミ・ブロンズ 昭62)

関正司作

「IRON LADY」 (鉄 昭57)

工芸

津田信夫作

「蜻蛉耳花生」 (陶芸)

「瓢花生」 (陶芸)

「白鳥」 (陶芸)

「鯨」 (陶芸)

「狸」 (陶芸)

「兎」 (陶芸)

堀口光彦作

「安眠装置」 (彫金 昭61)

神谷紀雄作

「鉄絵銅彩葡萄紋大鉢」 (陶芸 昭62)

土肥紅緒作

「吹き去りて」 (陶芸 昭55)

寄贈

次の資料を寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

洋画

足立朗氏より

足立源一郎作

「下加茂森」 (紙・鉛筆 明40)

「あは田」 (紙・鉛筆 明40)

「カーニユにて(オリブ畑)」 (紙・油彩)

「カーニユにて」 (紙・油彩)

「女性コスチューム」 (紙・油彩)

「カーニユにて」 (紙・コンテ)

「裸婦」 (紙・鉛筆)

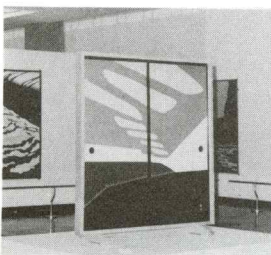
「浄土寺村ニテ」 (紙・鉛筆)

白井三郎氏より

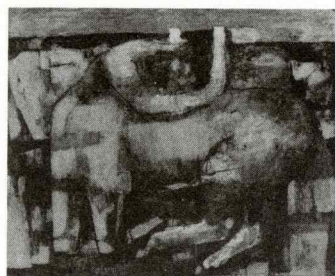
企画展

「青木滋芳展」終了

昭和62年9月12日から10月11日まで房総の美術家シリーズの第17回展として、染色工芸家青木滋芳の芸術に焦点を当てた。主舞台として活躍した日展及び日本現代工芸展の出品作品を中心に、昭和17年から没した58年までの作品約40点を展観した。この他にも下図類などの関係資料を展示し、青木芸術の魅力をも面的に探った。また10月3日には美術を語る会を開催し、「父、滋芳の思い出」と題して、息子で彫刻家の青木三四郎氏を中心に多数の参加者が青木滋芳の芸術や人となりについて活発に話題を交換し合った。会期中、青木の卓越した技術によってさらに高められた染色独特の美しい表現は、鑑賞者の心を深く魅了していた。



会場風景



安藤信哉「牧歌」



河合新蔵「竹林図」



柳原義達「風の中の鴉」



浅井忠「フォンテンブローの夕景」



会場風景

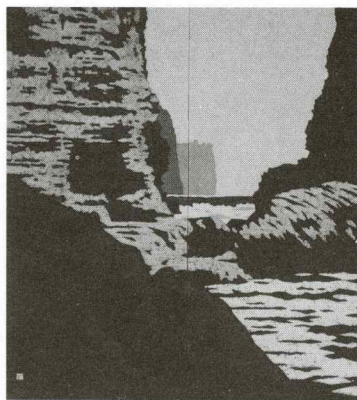
昭和59年度取得基金購入資料

保管換

- 無縁寺心澄作
「旧県庁と噴水」(紙・水彩)
彫刻
西村房蔵氏より
西村房蔵作
「陽」(ブロンズ 昭58)
工芸
青木かな子氏より
青木滋芳作
「黒潮」(染色 昭52)
堀口光彦氏より
堀口光彦作
「日曜日の雨」(彫金 昭52)
神谷紀雄氏より
神谷紀雄作
「鉄絵銅彩あやめ紋大鉢」(陶芸 昭61)
「鉄絵銅彩椿紋壺」(陶芸 昭62)



島多訥郎「群魚と波動」



青木滋芳「黒潮」

- 日本画
浅井忠作
「松」(紙本・墨 明25)
「梅」(紙本・墨 明25)
「欧州風景」(絹本・墨 明35頃)
「盗賊」(絹本・着彩 明35頃40)
「祖浅巻物」(絹本・墨 明35頃40)
「当世風俗五十番歌合(2番)」(紙本・着彩 明40)
「当世風俗五十番歌合(7番)」(紙本・着彩 明40)
「当世風俗五十番歌合(15番)」(絹本・着彩 明40)
「当世風俗五十番歌合(28番)」(絹本・着彩 明40)
「籠を背負う女」(絹本・着彩 明35)
「浅井忠画・正岡子規句」(絹本・着彩 明35頃40)
「狂女」(絹本・着彩 明35頃40)
「古城」(絹本・着彩 明35頃40)
洋画
浅井忠作
「溪流」(紙・鉛筆 明17)
「曳船通り」(紙・ペン 明18)
「フォンテンブローの夕景」(板・油彩 明34頃)
「洋上の夕陽」(紙・水彩 明35)
「母の肖像」(ボード・油彩 明35頃40)

企画展

「第11回千葉県移動美術館」

終了

今年度の第11回移動美術館は、本館、印旛村教育委員会、富津市教育委員会との共催により、昭和62年10月29日から11月9日まで印旛村中央公民館で、11月12日から24日まで富津市富津公民館で開催した。今回は、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書分野から40作家40点の作品を巡回した。明治以降の近代美術史に足跡を残した作家から現在活躍中の代表的な作家の作品まで幅広く展覧し、それぞれの美に触れ、美術の楽しさを味わっていただけのよう企画した。また本県ゆかりの作家も多く、本県美術への親しみを深めていただく機会にもなったと思う。「身近に美術鑑賞が出来る良かった」との声が多かった。

昭和62年度 常設 収蔵作品展Ⅳ期

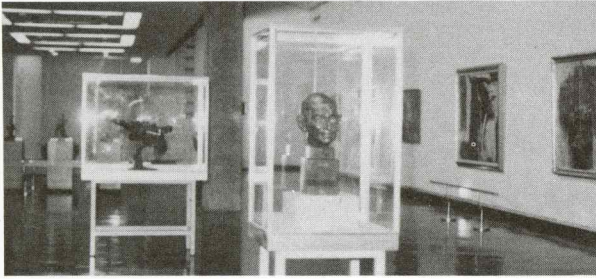
62・12・8～63・3・31

今年度第Ⅳ期は2部に分けて構成している。第1部では前期に引き続き、浅井忠コナーを設け、油彩、水彩、素描及び日記類などの資料を展示している。また、千葉県に生まれ、あるいは定住して、近代日本美術史に大きな功績を残した作家や、千葉県の美術の振興に尽くした作家など、房総ゆかりの作家10人に焦点を当てた。第2部では、今年度新たに収蔵した作品を紹介している。

合新蔵、真野紀太郎、安藤信哉、内藤聿、森桂一、小林数、天野三郎、積田鏗士、秋元恒、高橋規矩治郎等、彫刻家の高田博厚、柳原義達、西村房蔵、本田晶彦等、工芸家の青木滋芳、堀口光彦、神谷紀雄、土肥紅繪等。

10人の作家については、版画家の浜口陽三、星襄一、日本画家の石井林響、富取風堂、若木山、工芸家の香取秀真、津田信夫、洋画家の原勝郎、石橋武治、椿貞雄を対象とした。期間中、各作家の展示替えを行いながら、それぞれの美の世界を浮き彫りにした。現在、若木山、香取秀真、津田信夫、原勝郎、石橋武治の作品を展覧している。

新収蔵作品についても、順次紹介している。現展示作家は、洋画家の石川欽一郎、河



会場風景

特別企画展

デュフィ展

5月14日～6月19日

フォーヴィスムから出発し、近代絵画史上に大きな業績を残したフランスの画家ラウル・デュフィの作品を海外の美術館・コレクターの協力を得て展覧します。

石井柏亭と近代絵画の歩み展

9月10日～10月16日

本県ゆかりの石井柏亭は、浅井忠に師事した洋画家で、二科会、一水会等を組織し活躍しました。

本展では、柏亭を中心に特に関係の深い作家の作品を加え、柏亭の画業と近代絵画の歩みを回顧します。



デュフィ「花火と埠頭のカジノ」



石井柏亭「晩春行楽図」

企画展

常設収蔵作品展

I期 6月28日～9月4日
II期 12月13日～3月31日

本館が所蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各作品を2期にわけて順次展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介します。

房総の美術家シリーズ(18)

笹岡了一展

2月14日～3月12日

昭和63年度展覧会

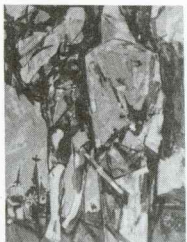
笹岡了一は、新潟県出身で戦後本県の流山市に住み、日展・光風会を主舞台に活躍した洋画家です。本県にあっては、千葉県美術会(県展)の

開催します。

第3回現代日本具象彫刻展

2月4日～2月26日

千葉市に建設中の県立青葉の森公園の彫刻広場に設置する作品を全国公募し、その入賞及び入選作品を展覧します。



笹岡了一「放蕩息子の帰宅」

かたる・つくる

(美術を語る会・実技講座等)

美術を語る会

本館では美術普及の一環として美術一般に関する問題をテーマに「美術を語る会」を開催し、「美の広場」の充実に努めている。

本年度は次のように実施した。

- 第一回 6月20日(土)
「明治洋画史料こぼれ話」
話題提供者 跡見学園女子
大学助教授 青木茂氏、
参加者78名

情報資料室から

昭和62年度 受入図書

〈購入〉今年度購入の図書の主なものは、次のとおりです。

- 一般図書・美術一般
現代日本執筆者大事典、20世紀全記録、日本の美術館ほか。
- 絵画
片岡球子画集、山口華揚画集、寺田政明、原雅幸画集ほか。
- 版画
吉田博全木版画集、荻原英雄版画集、現代の版画ほか。
- デザイン・写真
写真家マン・レイ、粟津潔作品集、永井一正の世界ほか。
- 彫刻
本郷新彫刻集、ジャコモ・マンズー、ブランクーシほか。
- 工芸

○第2回 7月11日(土)

「話題作にみる名画の影」
話題提供者 洋画家 高橋規矩治郎氏、参加者28名

○第3回 8月22日(土)

「私の制作について」
話題提供者 彫刻家 関正司氏、参加者22名

○第4回 9月5日(土)

「ピカソは現代をどう考えるか」
話題提供者 版画家 牛玖健治氏、参加者62名

○第5回 10月3日(土)

「父・滋芳の思い出」
話題提供者 彫刻家 青木三四郎氏、参加者52名

○第6回 11月21日(土)

「彫刻制作の現場―粘土から塑造まで―」
話題提供者 彫刻家 久保田侃通氏、参加者34名

○第7回 12月12日(土)

「中国・書の旅」
話題提供者 書家 種谷扇舟氏、参加者72名

○第8回 12月19日(土)

「もてなしの器」
話題提供者 陶芸家 神谷紀雄氏、参加者38名

○第9回 1月23日(土)

「版画と私―銅版画の表現を主として―」
話題提供者 版画家 鶴岡洋氏、参加者20名

○第10回 2月13日(土)

「漁場一筋に40年」
話題提供者 日本画家 渡辺学氏、参加者37名

美術館研究員会議

収集・保管・展示といった

美術館の基本的活動の充実を図るため、本年度も10人の研究員に、調査研究による御協力をいただいた。その第2回会議が2月5日(土)に開かれ、今年度の課題である浅井忠宛絵葉書(本館所蔵)の読み下しの中間報告を行った。これを足がかりに更に浅井周辺の交友関係、時代背景などを探ろうとする試みである。

ごあんない・団体展

●昭和62年度千葉大学

教育学部美術科卒業制作展
2月9日～2月14日

●子ども造形展

2月9日～2月14日

●幕張北高校書道コース

卒業制作展
2月9日～2月14日

●第22回千葉大学学生書道展

2月9日～2月14日

●第11回昭和会展

2月16日～2月21日

●第13回千葉県民写真展

2月16日～2月28日

●和洋女子大学卒業展

(雁鴻会書道展)
2月16日～2月21日

●袖ヶ浦高校卒業書作展

2月16日～2月21日

●第13回秋耕会千葉支部展

2月23日～2月28日

●2回千葉敬愛書道展

2月23日～2月28日

●第9回親子絵画展

2月23日～2月28日
(以上終了分)

●昭和62年度

第19回千葉市民美術展覧会
3月1日～3月21日

●第35回書星会教育部展

3月23日～3月27日

'87 実技講座をふりかえって

今年度の実技講座は、従来の初心者向け入門講座を全講座にわたって美術館友の会が運営し、経験者を対象とした講座は美術館において実施するという新しい試みでスタートしましたが、2月の洋画講座をもって全日程を終了しました。

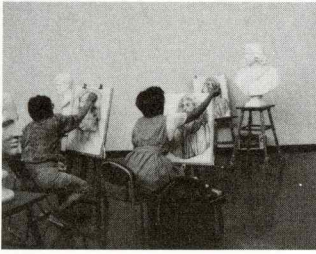
このうち美術館実技講座は延べ116日間開設されましたが、受講者に自主的な制作を展開していただくため、講師のつかない日を56日間設定するなど、運営面、内容面で大きく変わった年でした。

さらに実施した日本画・洋画等6分野については、関連したテーマのもとに今年度より新たに「美術を語る会」が開設され、作品を鑑賞したり制作する立場からの疑問点や意見が熱心にかわされました。

なお、応募状況は全体で375名の定員に対し、450名近い受講希望のほがきが寄せられました。

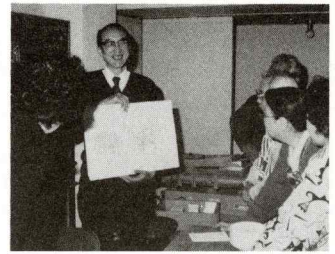
今年度実施した美術館実技講座は次のとおりです。

日本画講座 斉藤惇先生、



デッサン講座

20号パネルに、静物、人物等各自持参したスケッチから制作（10日間）参加者20名
洋画講座（1）（3）伊牟田經正、太田洋三、小林数の各先生、15号程度のキャンバスに、静物、裸婦、コスチューム、風景など（各12日間）参加者各33・40・35名
デッサン講座（1）（2）自主研修講座、石こう、コスチューム、静物で淡彩まで（各8日間）参加者各21・23名



日本画講座

'88のごあんない

昭和63年度実技講座は、内容、開催日数とも今年度と同様実施します。

陶芸講座	(1)	(10日間)	5月～
彫刻講座	(10日間)	5月～	
デッサン講座	(1)	(8日間)	5月～
日本画講座	(10日間)	6月～	
書芸講座	(1)	(4日間)	7月～
洋画講座	(1)	(12日間)	7月～
版画講座	(2)	(10日間)	8月～
洋画講座	(2)	(12日間)	8月～
書芸講座	(2)	(4日間)	9月～
陶芸講座	(2)	(10日間)	10月～
洋画講座	(3)	(12日間)	11月～
書芸講座	(3)	(4日間)	12月～
デッサン講座	(2)	(8日間)	1月～

※都合により期日を変更する場合があります。

彫刻講座 久保田徹通先生、丸彫り、レリーフ、お面などを木彫により制作（10日間）参加者18名
版画講座 平野正房先生、15×18、22×27cmの2種の銅板を用い、自由なテーマでドライポイント、アクアチントなど（12日間）参加者15名
陶芸講座（1）（2）横山光ノ介、神谷紀雄の各先生、各期3回にわたり制作し、粘土、焼成方法を変え、花びん、茶わん、皿など（各10日間）参加者各32・34名
書芸講座（1）（3）高木東扇、千代倉桜舟、浅見錦龍の各先生、かな、近代詩文書、漢字を各期のテーマとして、歴史・書の見方などを含めて（各期



彫刻講座

4日間）参加者各24・24・24
63年度実施計画は次のとおりです。
受講申し込みは、4月以降往復はがきに講座名、住所、氏名、電話番号を明記のうえ学芸課普及班あてお申し込みください。

〈臨時休館のお知らせ〉

現在進行中の増築工事のため、次の期間臨時休館いたします。

4月1日（金）～4月25日（月）

大変御迷惑をおかけしておりますが、8月には工事を終了する予定です。完成後は、新しい展示室を、皆様に御覧いただけると思います。

日誌抄

2 ・ 13	2 ・ 5	1 ・ 30	1 ・ 23	12 ・ 19	12 ・ 21	11 ・ 12		10 ・ 29		10 ・ 29	10 ・ 3		9 ・ 16	9 ・ 12	9 ・ 5
第十回美術を語る会 会議	第二回美術館研究員 会	友の会役員会	第九回美術を語る会	第八回美術を語る会	第七回美術を語る会	第六回美術を語る会	・10・12・11・15	11・12・11・19・12 成講座（11・5・12）	施設ボランティア養 成講座（11・5・12）	11・12・11・24 29・11・9・富津市 美術館（印旛村10・ 29）	第五回美術を語る会 第十一回千葉県移動 美術館（印旛村10・ 29）	29まで）	第二次博物館実習 （3大学、5名、9・ 29まで）	企画展「青木滋芳展」 （10・11まで）	第四回美術を語る会